

よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 講師）

研究協力者：太田貴（やろっこ）、星野慎二（NPO 法人 SHIP）、荒木順子（NPO 法人 akta）、
石田敏彦（ANGEL LIFE NAGOYA）、後藤大輔、町登志雄（MASH 大阪）、
宮田りりい（SWASH）、新山賢（Haat えひめ）、玉城祐貴（nankr 沖縄）

研究要旨

本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度には 2 地域で質問紙調査を実施することとした。初年度には調査内容について男性同性愛者を中心とする当事者団体らと検討し、先行研究で用いられた質問項目に加えインターネット利用に関する項目、新たな知識となる Treatment as Prevention や PrEP の知識についての項目を追加し、2018 年 1 月 12 日から 2 月 12 日の 1 ヶ月間、中四国地域および横浜、仙台で調査を実施した。

中四国地域では 7 県のゲイバー 40 店舗から協力を得られ、総計 780 部の質問紙を配布し、568 部回収した（回収率 72.8%）。また横浜では 20 店舗の協力を得て、総計 340 部の質問紙を配布し、279 部回収した（回収率 82.1%）。仙台では、10 店舗の協力を得て、総計 170 部の質問紙を配布し、137 部回収した（回収率 80.6%）。ゲイ向け商業施設 70 店舗の協力を得て、総計 1,290 部の質問紙を配布し、984 部回収した（回収率 76.3%）。現在分析を進めている。

A. 研究目的

先行研究では MSM における生涯受検割合は 6 割～7 割程度、過去 1 年間の受検割合は 3 割程度にとどまっている。

未受検者や定期的な受検習慣がない MSM の中には、薬物使用者や経済的困窮者、セックスワーカー、ネットワークが希薄な地方地域在住の MSM 等、感染リスクの高い層が含まれると考えられる。また予防啓発が届いていない層では HIV/AIDS に関する意識や知識、およびスティグマは従来のままであると考えられ、効果的な予防介入の浸透が阻害されている可能性もある。これらの層は従来の予防介入では届かなかった層であり、MSM の中でもより HIV 感染リスクの高い層である。今後予防介入はよりハイリスクな MSM 層に焦点化して展開し

ていく必要があり、本研究では横断調査によって、よりハイリスクな MSM 層の実態を把握することを目的としている。また、最終的には各地域の CBO で連携してよりハイリスクな層に有効な介入方法を検討し、試行と効果評価の方法を検討することも目的としている。

B. 研究方法

当初の計画では初年度は機縁法により事前調査、2-3 年目に本調査の実施と介入の試行を行うこととしていたが、分析可能な対象者数の回答を得ることや、先行研究との比較を行うことを踏まえ、計画を変更して初年度に 2 地域で質問紙調査を実施することとした。

方法は先行研究と同様に、各地域の CBO がゲイ向け商業施設利用者を対象に HIV に関す

る知識の提供や検査行動の促進を目的にした活動を展開していることをふまえ、これらのCBOを介して、ゲイ向け商業施設に調査協力を依頼し、質問紙調査を商業施設スタッフから利用者に配布する仕組みとした。同意の得られた商業施設にアンケートセットを配布し、従業員から利用者に直接手渡され、利用者が記入後厳封し、商業施設にある回収袋に投函する方法とした。回答者には謝礼として商業施設で使用可能なチケット（1,000円相当）と調査依頼書をアンケートセットに同封して、無記名自記式の質問紙と一緒に配布した。

調査項目は先行研究と同様の項目を活用し、基本属性、過去6ヶ月間の商業施設など利用経験、予防啓発活動の認知、ソーシャル・キャピタル、HIV抗体検査受検経験、検査の未受検理由、性行動および予防行動とした。さらに男性同性愛者を中心とする当事者団体（東北：やろっこ、首都圏：NPO法人akta・NPO法人SHIP、東海：ANGEL LIFE NAGOYA、近畿：MASH大阪、中四国：HaaT えひめ/BRIDGEプロジェクト、沖縄県：nankr 沖縄）と共同し、当事者参加型で検討を進め、男性同性愛者の社会的文脈に沿った調査項目となるよう検討し作成した。

初年度はCBOと研究方法および調査内容を検討し、調査開始が2018年1月12日（金）から2月12日（月）としたため、実施状況を研究結果として報告する。なお、本研究は大阪青山大学倫理審査委員会の承認を得た。

C. 研究結果

調査内容について

本研究ではよりハイリスクなMSM層の実態を把握することを目的としているため、CBOスタッフと検討し、これまで意識的に予防介入を行ってこなかった層を特定する項目として、以下のインターネット利用に関する項目を追加した。

□ 過去6ヶ月間に、以下のSNSや掲示板を活

用して、画像や文字を投稿しましたか？

□ 前問でチェックした、SNSや掲示板、アプリに、自分の顔や身体の画像を投稿したことがありますか

□ 前問で、チェックしたSNSや掲示板に、裏アカウント持っていますか？

□ 前問で、チェックしたSNSや掲示板であった相手とセックスしたことがありますか？

先行研究では、商業施設利用者の中でもインターネットを利用した出会いを積極的に行う層における感染リスクの高さが報告されているが、MSMにおけるインターネット利用の方法も多様性があることについて明らかにした研究はみあたらない。検討する中で、新たに追加した項目のような経験を有する人は感染リスクの高い層であると思われるが、よりハイリスクな層に焦点をあてて予防啓発を進めるためには、まず、彼らの動向を明らかにする必要があると考えた。

また新たな知識となるTreatment as PreventionやPrEPの知識について以下の項目も追加し、HIV/AIDSに関する知識や意識の状況を把握することにした。

□ あなたは、抗HIV薬（ウイルスの増殖を抑える薬）の服薬治療により、体内のウイルス量が検出限界未満となり、それを維持することで、HIVを他者に感染させる可能性がほとんどゼロに近くなることを知っていますか？

□ 「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP, プレップ）」や「HIVに感染したかもしれないときの予防服薬（PEP, ペップ）」に関する上記のような情報について、知っていましたか？

□ あなたの友達や知り合い、セックスの相手で、HIV陰性者（HIVに感染していない人）の中に「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP, プレップ）」をしている人は

いると思いますか？

□あなたは、「HIV 感染予防のためのセックス前の服薬 (PrEP)」を服薬したいと思いますか？

新たな知識については、ゲイコミュニティにおける啓発普及の必要性が指摘されている。日本の現状として、これらの認知が低いことは先行研究で報告されているが、一方コミュニティでは PEP や PrEP についてはインターネットの情報を見て問い合わせがあったり、個人輸入等の動きも少ないが存在する。結果的にリスクな行為を望んでいる層が PrEP のことを知れば、余計にアンダーグラウンドに潜っていく可能性も考えられる。また TasP については HIV を持っている人に対するスティグマの払拭につながるが、コミュニティに情報を提供するときには、TasP について気軽に伝えられる環境が整っていることも重要である。本調査では、上記のような意見交換をふまえ、まず初めに、新たな知識や意識がどの程度浸透しているかを把握することを目的とした。

調査地域について

初年度の調査対象地域は横浜、仙台、中四国のゲイ向け商業施設利用者とした。参加地域と参加店舗数および配布数の合計を以下の表に示した。

仙台・中四国では本調査で初めてゲイコミュニティの商業施設利用者を対象とする横断的質問紙調査の実施となった。また横浜地域では本調査で3度目の実施となる。先行研究との相違点としては、商業施設の中でゲイ向け性風俗店である有料のハッテン場や売り専等の商業施設から協力を得られていることであり、これまで予防介入が届かなかった層の動向把握に寄与すると考えられる。

実施状況について

中四国地域では7県のゲイバー40店舗から

協力を得られ、総計 780 部の質問紙を配布し、568 部回収した (回収率 72.8%)。また横浜では 20 店舗のゲイバーおよびハッテン場から協力を得られ、総計 340 部の質問紙を配布し、279 部回収した (回収率 82.1%)。仙台では、10 店舗のゲイバーおよび売り専から協力を得られ、総計 170 部の質問紙を配布し、137 部回収した (回収率 80.6%)。

総数では、ゲイ向け商業施設 70 店舗の協力を得て、総計 1,290 部の質問紙を配布し、984 部回収した (回収率 76.3%)。実施状況を以下の表に示した。

表 1 実施状況

地域		協力店舗	配布数	回収数 (回収率)
中国地域	岡山県	9	170	90
	広島県	17	330	278
	島根県	1	20	0
四国地域	愛媛県	4	10	94
	香川県	4	70	61
	徳島県	1	80	10
	高知県	4	100	35
小計		40	780	568 (72.8%)
横浜		20	340	279 (82.1%)
仙台		10	170	137 (80.6%)
小計		30	510	416 (81.6%)
総計		70	1,290	984 (86.3%)

D. 考察

実施状況では回収率はおおむね 8 割と高く、これまで CBO が活動を展開し、商業施設との関係を構築してきたことが影響していると考えられる。

本調査の結果によって、エイズ予防指針のもとに実施されてきた従来型の予防介入では、介入が届きづらかった「よりハイリスクな MSM 層」の実態が明らかとなり、彼らへの予防介入を検討するうえで重要な資料を得ることが可能となる。また「よりハイリスクな MSM 層」への予防介入は、今後の新規 HIV 感染者数の減少に向けた有効な介入方法の開発と展開につながることが期待できる。

E. 結論

今年度は、本研究の目的となる「よりハイリスクなMSM層」についてCBOと協働して整理し、その実態を把握するための調査内容と方法を検討した。複数の新たな質問項目を作成し、調査実施の準備を進めた。

調査対象となった地域には初めて実施する地域やゲイ向け性風俗店利用者も含まれることが可能となり、次年度以降分析を進めていく。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 印刷中。

2. 学会発表

1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおけるHIV抗体検査—『これまで』と『これから』シンポジウム3 HIV将来予測と流行阻止 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

2) ○塩野徳史 HIV検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層MSMを対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島岳, 太田貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山賢, 金城健, 本間隆之, 市川誠一 aktaで展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京,

H29.11.24-26

5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSMにおける性交相手との出会いの場所と方法年齢層による差異について— 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

6) 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 宮田りりい MSMにおける検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista利用者の変化 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

7) 後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

8) 川畑拓也, 小島洋子, 森治代, 駒野淳, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町登志雄, 柴田敏之, 木下優 大阪府におけるMSM向けHIV/STI検査相談事業・平成28年度実績報告 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

9) Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017

10) 櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおけるHIV抗原抗体検査受検者アンケートから見たMSM対策の評価 ワークショップ3 検査・相談体制 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。